

「羊蹄山」 その名の由来

羊蹄山の山名ほど、複雑な経緯を辿ってきた山は他にありません。

羊蹄山は深田久弥の日本百名山に選ばれていますが、その中で下記の様に書かれています。

羊蹄山は、古くは「シリベシヤマ」と呼ばれていました。植物学者の牧野富太郎は、「後方」は「シリへ」で後ろの意であり、「羊蹄」は「シ」または「シブクサ」と呼ばれる、草の漢名であると言っています。

「シリベ・シ・ヤマ」という音に「後方・羊蹄・山」と漢字をあてていたのです。

では、「シリベシ」という地名はどこから来たのでしょうか？

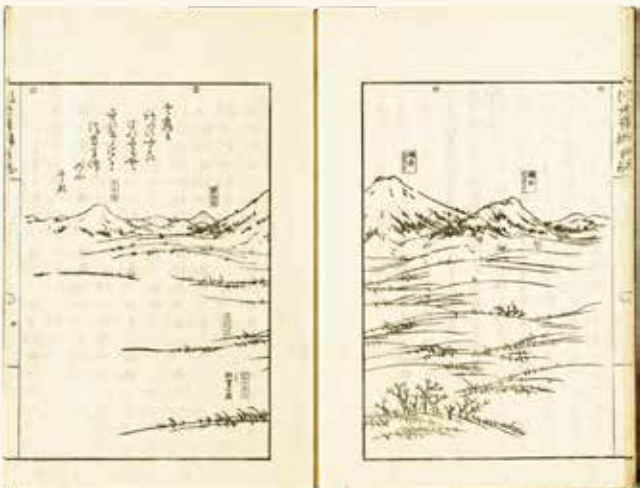
それは『日本書紀』に端を発します。同書によると斉明天皇の五年(659年)に阿部臣(比羅夫)が百八十艘の軍船を引きいて遠征し、二人の蝦夷が「後方羊蹄を以って、政所とすべし」と進言したので、政所を置いて帰ったという事です。後年、北海道の名付け親でもある松浦武四郎はその「シリベシ」を尻別川流域と考え、現在の羊蹄山を後方羊蹄山(シリベシヤマ)としました。

大正9年発行の地形図には後方羊蹄山(蝦夷富士)と記載されていましたが、地元倶知安から難解な後方羊蹄山(シリベシヤマ)を羊蹄山と地名変更する為の要望が出されました。そして、昭和44年編集・発行の地形図から羊蹄山(蝦夷富士)と書き換えられました。

一方、アイヌの人たちはこの山をマッカリヌプリ・マチネシリ(女山の意)などと呼んでいたようです。

参考文献:余市豆本の会『羊蹄山百話(歴史篇)』武井静夫／羊蹄山麓商工会広域連携協議会『ぐるっと羊蹄まちしるべ』羊蹄山麓地域観光ガイド育成実行委員会／倶知安双書『羊蹄山登山史』高澤光雄／より

[安政5年2月2日ケツフナイより望む後方羊蹄山]



松浦武四郎 著:「後方羊蹄日誌」 国立国会図書館所蔵

羊蹄山の自然を安全に楽しむために

1.気象

羊蹄山は2,000mに満たない山です(1,898m)。しかし、北海道の山は中部山岳地域の山に比べると、気象条件が標高1,000m程度厳しいと言われています。したがって、羊蹄山は中部山岳地域の3,000m級の山の気象条件だと考えて、防寒着・レインウェア・手袋・帽子等の準備をしっかりとお願いします。

2.標高差

羊蹄山の各登山口から山頂までの標高差は1,600m以上もあります。登り5時間、下り4時間、合計10時間程度の厳しい登山となります。日帰り登山の場合は出来るだけ早く出発し、日没前に必ず下山出来るようにしましょう。安全の為に9合目の避難小屋の利用も検討して下さい。

3.半月湖野営場と避難小屋

倶知安コースの登山口には半月湖野営場が有ります。早出をする際には便利です。また、羊蹄山の9合目には避難小屋が有ります。予約は出来ませんが、倶知安町では安全の為に利用者数の把握を行っています。大変混雑する日も有りますので、倶知安町観光課0136-23-3388まで、日時・代表者名・人数の連絡をお願いします。

4.トイレ

羊蹄山の山中には9合目の避難小屋以外にはトイレがありません。健全な環境維持の為に携帯トイレの使用をお勧めします。また避難小屋のトイレの処理能力の低下を防ぐ為、使用済みトイレトペーパーを含めた全てのゴミは原則すべて持ち帰りいただいています。エチケットバッグを持参して下さい。

5.その他

登山計画書・・・北海道警察や家族に、登山計画書を提出しましょう。
ストック・・・・羊蹄山の下山は急斜面が長く続く為、膝に大きな負担がかかります。登山用のストックを持って行くことをお勧めします。
尚、ストックには植生保護の為ゴムキャップを付けて下さい。
塩分・・・・甘い物だけではなく、塩分を含む行動食も用意しましょう。
水分・・・・10時間程度の登山です。
夏場には水分を2L以上持って行きましょう。
踏みつけ・・・・高山帯の植物は環境の変化に弱く、繊細です。登山靴で踏みつけたり、ストックで刺したり、座り込んだりしないようお願いします。
盗掘・・・・見つけたら、その場で警察に電話してください。
(直接声は掛けないでください)

それでは、皆さん安全に羊蹄山登山を楽しんでください！

| 連絡先 |

倶知安警察署:0136-22-0110

| 発行 |

一般社団法人 倶知安観光協会

「自然と山を愛する人へ」

ガイドマップ

羊蹄山



Mt.YOTEI GUIDE MAP

PUBLISHING BY:
KUCCHAN TOURIST ASSOCIATION

第一級の保護地
「羊蹄山」

国指定天然記念物・後方羊蹄山の高山植物帯 1921年(大正10年)指定

「後方羊蹄山山頂域および半月湖にかけての登山道の両端300mの高山植物帯」つまり、羊蹄山中腹以上と倶知安コースの両脇300mが、大正10年に国の天然記念物にされました。具体的な選定理由の記述は無いのですが、研究者等の間では「羊蹄山は典型的な成層火山の為、植生が垂直分布によって明確に分かれており、学術的に価値のある特徴的な植生だから」と考えられています。

[解説文]

北海道ノ代表的高山植物帯ニシテ種類ノ豊富ナルノミナラズ同地方固有ノモノ亦少カラズ主トシテ、えぞのつがざくら、いはいてう、きばなしゃくなげ、えぞのほそみ、きくばくわがた、ほそばおんたて、いはぶくろ、いはぎきやう等ニシテ殊ニえぞのつがざくら、いはいてうノ純群落著シ

参照：国指定文化財データベース（〔史跡名勝〕天然記念物検索システム・文化庁HP）より



※太線・薄緑色の部分が天然記念物指定範囲。茶色の線は登山道。

自然公園法・支笏洞爺国立公園 1949年(昭和24年)指定

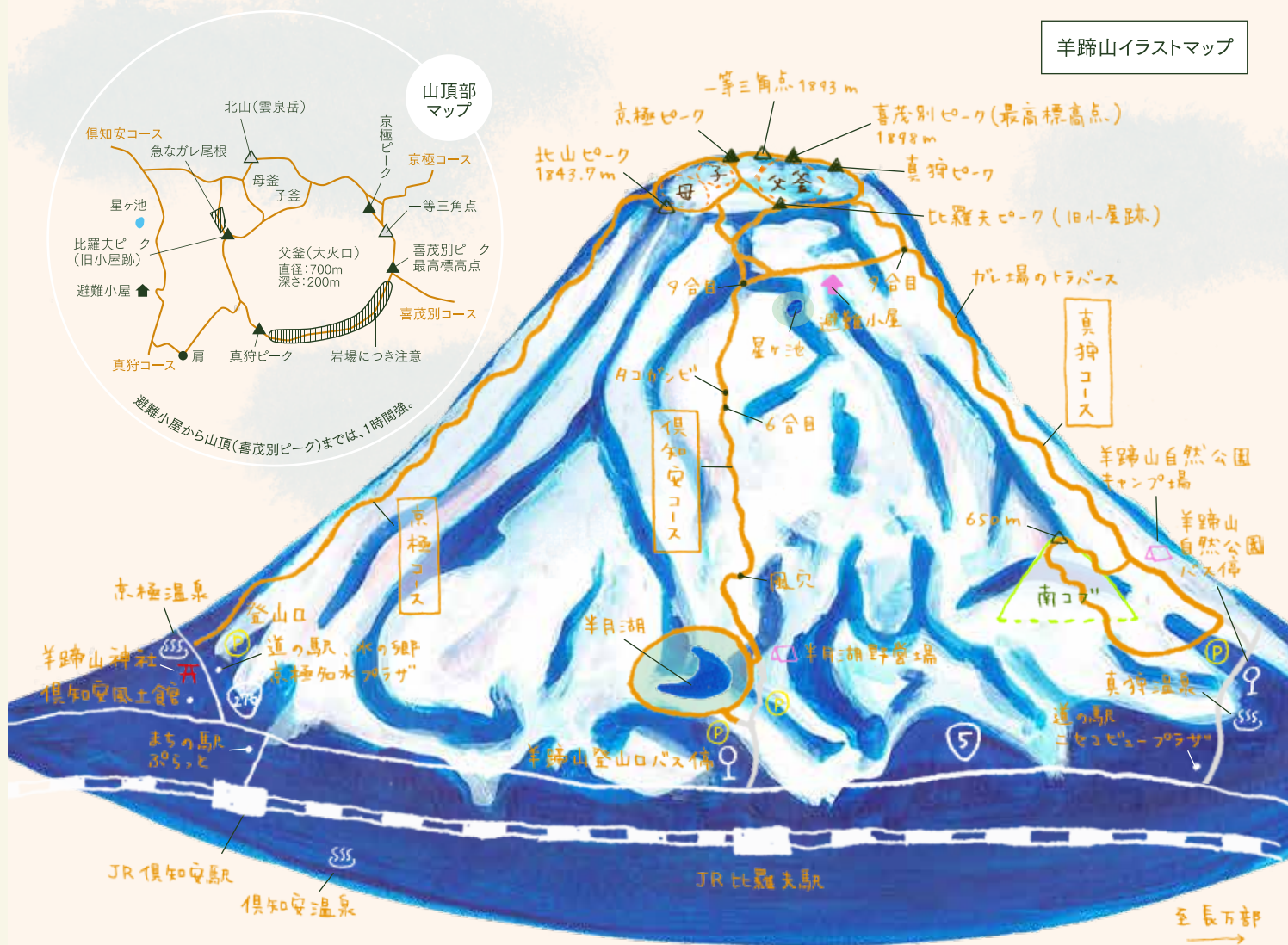
羊蹄山は支笏洞爺国立公園に含まれています。同国立公園には、有珠山・樽前山・支笏湖・洞爺湖などの様々な形式の火山地形が見られ、多種多様な温泉も湧く『生きた火山の博物館』と言える公園です。

羊蹄山は自然公園法により、特別保護地区と特別地域に指定されています。特別保護地区では、全ての動植物の採取と損傷は禁止されています。

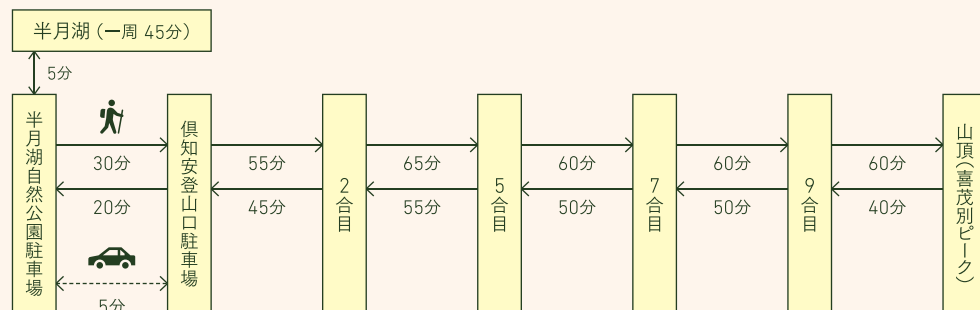


※橙色の部分が特別保護地区。ピンク色は特別地域。

羊蹄山イラストマップ



各ポイントまでの所要時間



羊蹄山山頂まで(喜茂別ピーク)	
登り	4～5時間
下り	3～4時間
外輪一周	1～1.5時間
山行全体	9～12時間

■羊蹄山の植生と垂直分布

羊蹄山の植生は、1921年に国の天然記念物に指定されています。具体的な選定理由の記述は無いのですが「羊蹄山は典型的な成層火山の為、垂直分布によって植生が明確に分かれており、学術的に価値のある特徴的な植生だから」と考えられています。気象的には中部山岳地域の山に対して1,000m程度厳しいと言われています。羊蹄山は1,898mの山ですので、中部山岳地域の3,000m級の山と同じような気象条件になります。

標高1500m以上

ハイマツが優占し、その下にはコケモモ等が生育する高山植生が見られます。風が強く当たり、積雪の少ない砂礫地にはイワブクロ・メアカンキンバイ・イワギキョウ、オノエリンドウ等が見られ、風下側の雪が厚く溜まる場所にはエゾノツガザクラ・チシマフウロ・ミヤマキンバイ等が見られます。緩やかな斜面の適潤地にはチシマアザミ、オニシモツケ、エゾニュウ・エゾカンゾウ等の背の高い草が見られます。

標高1100～1500m

ダケカンバとチシマザサが優占する植生が広く見られます。ササが密生する為、植物の種類が少なく、単純な植生となっています。

標高700～1100m

ダケカンバが優占する標高帯です。尾根筋にはアカエゾマツが出現しダケカンバと混じって生育しています。その下にはチシマザサとクマイザサが優占しています。

標高700m以下

エゾイタヤやミズナラに代表される落葉広葉樹林が広がる標高帯です。尾根筋にはトドマツとミズナラが優占する針広混交林が見られます。沢筋にはヤチダモ、シウリザクラ、ハルニレ等が見られます。



はるのはな	
コメバツガザクラ (6月上旬)	サンカヨウ (6月下旬)
シラネアオイ (6月中旬～下旬)	ウコンウツギ (6月下旬)

なつのはな	
メアカンキンバイ (7月上旬)	イワブクロ (7月中旬)
イワウメ (7月上旬)	エゾカンゾウ (7月下旬)

あきのはな	
ウメバチソウ (8月中旬)	エゾオヤマリンドウ (8月下旬)
イワギキョウ (8月下旬)	紅葉 (9月上旬～中旬)

羊蹄山を代表する植物

エゾノツガザクラ
高山の雪田縁や草地、礫地に生息するツツジ科の植物です。羊蹄山にはアオノツガザクラが見られませんが、アオノツガザクラとの雑種が出来ない為か、羊蹄山のエゾノツガザクラの花は非常に鮮明なピンク色です。



キバナシャクナゲ
高山の礫地やハイマツ帯に生える、高さ10～30cmのツツジ科の植物です。山頂部の砂礫地帯の安定した緩やかな斜面に見られます。倶知安町の町花としても親しまれています。



オノエリンドウ
高山の礫地や周辺の草地に生息するリンドウ科の植物。羊蹄山山頂部では中央火口道の周りの草地や、比羅夫ピーク、京極ピークの礫地に見られる。北海道では羊蹄山にのみに見られ、本州でも白馬岳、針ノ木岳、八ヶ岳、荒川岳の4ヶ所のみに分布しています。



ダケカンバとチシマザサ
羊蹄山の亜高山帯は非常に多雪であり急斜面なので、植物への雪の圧力がとても大きいと考えられます。植物には厳しい環境と言えます。しなやかなチシマザサや、折れても這い上がるダケカンバの様な雪に強い植物が優占しています。



イタヤカエデ(エゾイタヤ)
平地から山地に生える落葉広葉樹。高さ20mにもなるカエデ科の高木です。羊蹄山周辺では、変種のアカイタヤが多く見られます。アカイタヤの若葉は紅紫色をしており、新緑の時期に春紅葉として季節を彩ります。秋の紅葉時期は黄色～橙色に染まります。倶知安町の町木としても親しまれています。



コマクサ
高山植物の女王として名高い植物です。高山の礫地に生息しています。ただし、羊蹄山には元々は生息しておらず、人為的に播種されたことが分っています(国内外来種)。現在、駆除作業を行っています。見かけた場合は小屋管理人が観光協会に場所・個体数・写真などの情報をご連絡頂けると助かります。



羊蹄山の動物



シマリス



エゾオコジョ



エゾユキウサギ



クマゲラ



エゾリス



キタキツネ

羊蹄山の成り立ちと湧水

京極町の羊蹄山噴き出し湧水は、環境省によって「日本の名水100選」に選ばれています。羊蹄山に降った雨や雪は時間をかけて地中を流れ濾過されます。カルシウムやマグネシウムなどのミネラル分が程よく溶け込み、水温は6.8℃と1年を通してほぼ一定しているのでもとても美味しく感じられます。

羊蹄山は噴火の過程によって、古い羊蹄山と新しい羊蹄山の二重構造になっており、古い羊蹄山は今の山頂よりも西側に偏って内包されています。羊蹄山に降った雨や雪は浸み込み地下水となります。そして標高250m前後にある溶岩と粘土層の境目付近で地表に流れ出てきます。京極などの東寄りの湧水量が多いのはそうした訳です。

